



藤原 惠

## 藤原 恵教授記念号によせて

関西学院大学社会学部長

萬 成 博

藤原先生は昭和50年3月に定年によって関西学院大学社会学部教授を退職される。先生は31年間におよぶ朝日新聞社の記者、編集者、編集・出版の諸役職を終えたうえで、昭和37年4月に社会学部教授として就任された。それよりさき昭和35年に社会学部が文学部社会学科から独立したが、新聞広報の専攻者は一人もおらず、したがって先生の就任は社会学部のなかにマス・コミュニケーションの教育課程をつくり、教育・研究陣を学部のなかに組織することであった。就任いらい13年のあいだに先生は関学社会学部の第3類の課程を充実させ、今では津金沢聡広、山本武利、真鍋一史の三氏の新進気鋭の研究者を擁するようになされた。この間、多数のマス・コミュニケーションの専攻者を教育し、日本のマス・コミ界に送るとともに、大学院生の養成に努力された。ここに先生におくる記念号を出版するにあたって、先生の社会学部における功績とプロフィールを記しておく。

先生は大正13年に愛媛県西条中学校を卒業され、同年関西学院文学部社会学科に入学され、昭和3年に4年制の専門学校を卒業されている。大正年間に社会学科をもった専門学校は、おそらく関学がただひとつであった。先生の在学の当時の教授陣は故河上丈太郎（元日本社会党委員長）阪本勝（元兵庫県知事）、さらに現在も活躍されている新明正道先生などであった。藤原先生は、河上丈太郎先生のゼミナールに属され、ふるきよき時代の学院の生活をエンジョイされ、またその思想的影響を受けられた。先生は終始河上丈太郎先生に師事され、その政活活動を支援され、現在は息子の河上民雄代議士の支持者である。大正から昭和の初期の関西学院社会学科の様子を寄稿して下さることを数年前に依頼しておいたところ、この記念号に「関西学院と新聞教育——小山東助から河上丈太郎へ——」という文をよせて下さった。われわれはこの文により藤原先生の学生時代を知ることができる。

朝日新聞における先生の御活躍は外勤よりも整理部、出版局の活動が多い。そして日本における新聞発達史に関する資料の蒐集のうえに新聞研究の道に進まれた。社会学部の多くの学生が新聞発達史の先生の講義に集り、また先生の演習には毎年多くの学生が志望した。先生はゼミ生を中央や地方の新聞社やテレビやラジオの報道機関に就職させることに積極的であった。

社会学部における講義や演習のほかに、先生は昭和46年には学生主任となられ学院紛争後の困難な時代の学生指導の重責を果された。また昭和47年関学と同和問題委員会が構成されてからは、全学の委員長として同和教育を推進された。学外においても法務大臣より委嘱の人権擁護委員として活躍されている。

われわれは先生が学院を退職されたのちも、社会学部のマス・コミ教育に御支援下さることを期待すると共に、先生のこれからの御活躍をお祈りする次第である。